

NISAで投資を行わない理由は、どの商品に投資するか迷っているから!? 10月の人気は日本株、次いでグローバル株、アセットアロケーションファンドやREIT!!

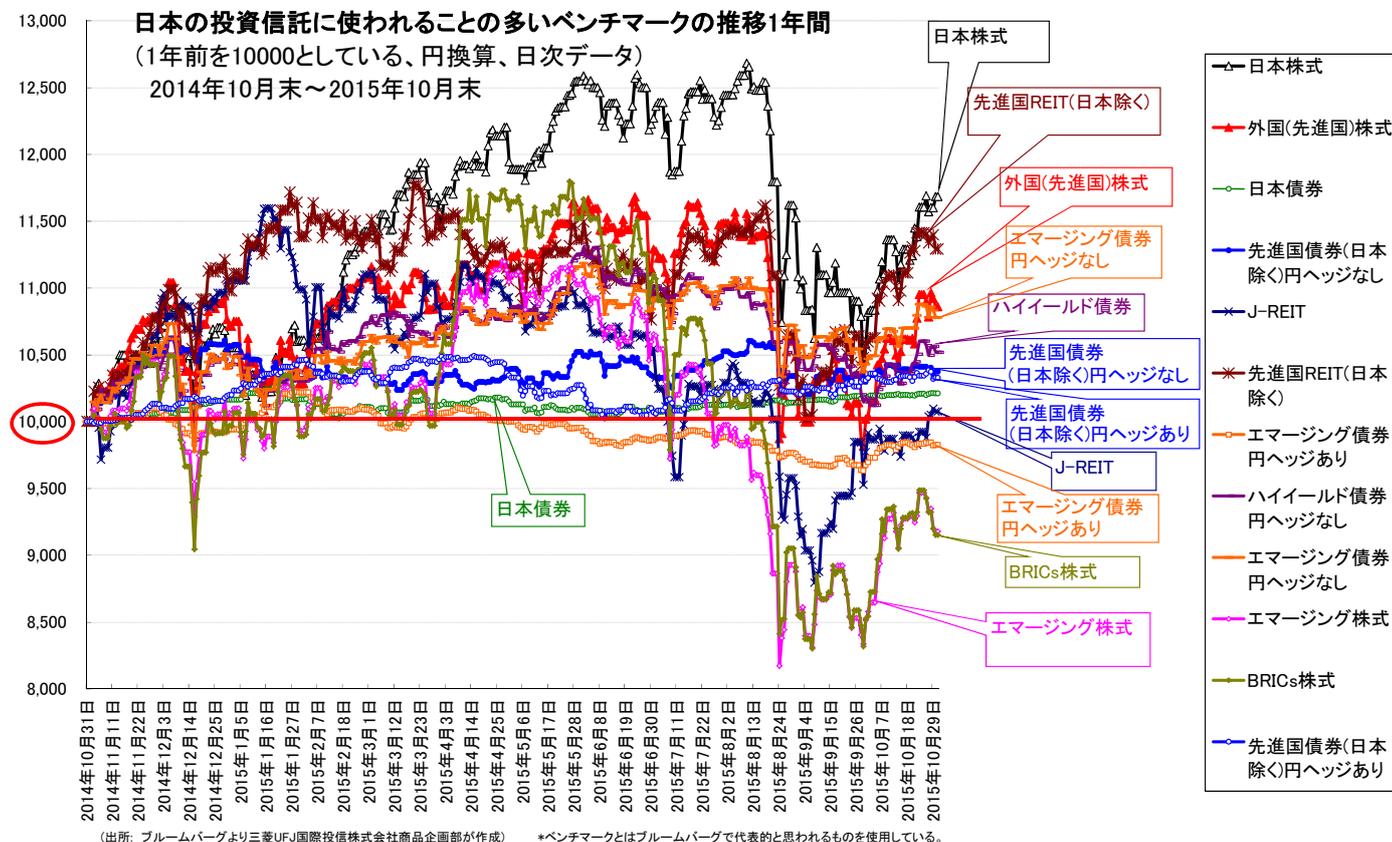
商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

株価反発局面に NISA で何が買われたか?

2015年10月の株価は9月までのボラタイルな相場展開を経て反発した。日経平均株価は2015年10月末に19083.10円と約2カ月ぶりの高値、月間では+9.7%高、9月29日に付けた16930.64円(1月16日以来安値)からは+12.7%高の水準となった。株価反発について「日経平均株価が約2カ月ぶりの高値を回復したこの日も、主役は『郵政』だった。売買代金は3銘柄合計で5300億円強と東証1部全体の2割に達した。もともと、日経平均は午後の取引開始直後に1万9167円の高値を付けた後は横ばいの展開。『郵政相場の陰で上値の重さも意識された』と話す市場関係者は少なくない。」(11月6日付日本経済新聞朝刊～URLは[参考ホームページ]参照)と報じられている。この様な中で、2015年末に投資総額約7兆円台(2015年6月末実績5兆1936億円)突破も期待されているNISA(少額投資非課税制度)で何が買われたかを見る事とする。

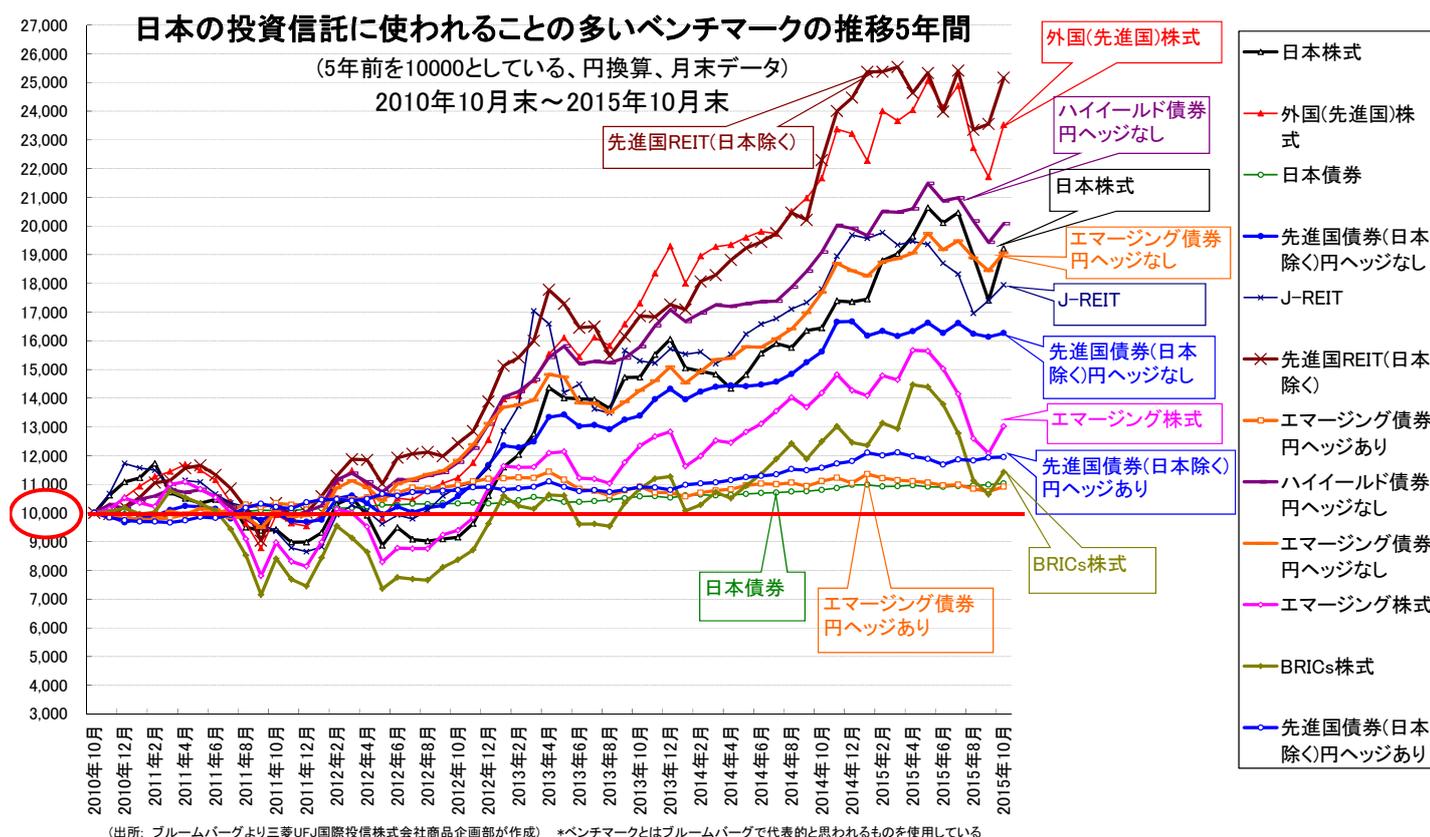
下記グラフは1年のパフォーマンスで良い順に、日本株式、先進国REIT、先進国株式、エマージング債券、ハイイールド債券となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。



2015年10月に純設定額の最も大きかった日本株は2015年7月から9月にかけて3カ月連続で+4000億円台の資金純流入だった。ただ、2015年10月は+1100億円強と2015年4月以来の小ささであった。その一方、10月に2番目に純設定額の大きかったREITは2015年6月から継続して+1000億円台と、額こそ日本株より少ないが、2012年9月から資金純流入傾向で(2014年11月を除き)、昨年(2014年)1年間の純設定(+1.7兆円～トップ)を9月に超えている(2014年については2015年1月13日付日本版ISAの道 その86を参照～後述URL[参考ホームページ])。

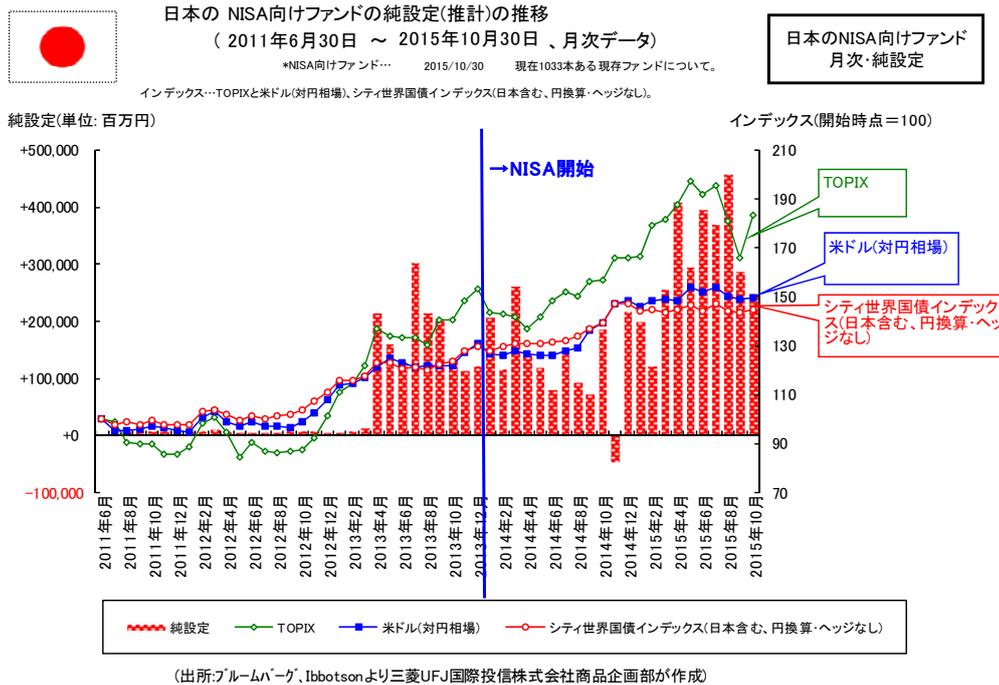
純設定とパフォーマンスの関係はどうか？ 投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、先述グラフの通り、1年のパフォーマンスで好い順に、日本株式、先進国REIT、先進国株式、エマージング債券、ハイイールド債券だった。日本株は8月に急落、9月も続落だったが、10月は冒頭で示した通り、1割超の上昇だった。また、REITについては、長期相対パフォーマンスの良さに加え、相場が下がると、目先は分配金利回りが上がる為、その事も人気の要因の一つになっている様だ。

下記グラフは5年のパフォーマンスで、好い順に、先進国REIT、先進国株式、ハイイールド債券、日本株式、エマージング債券となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



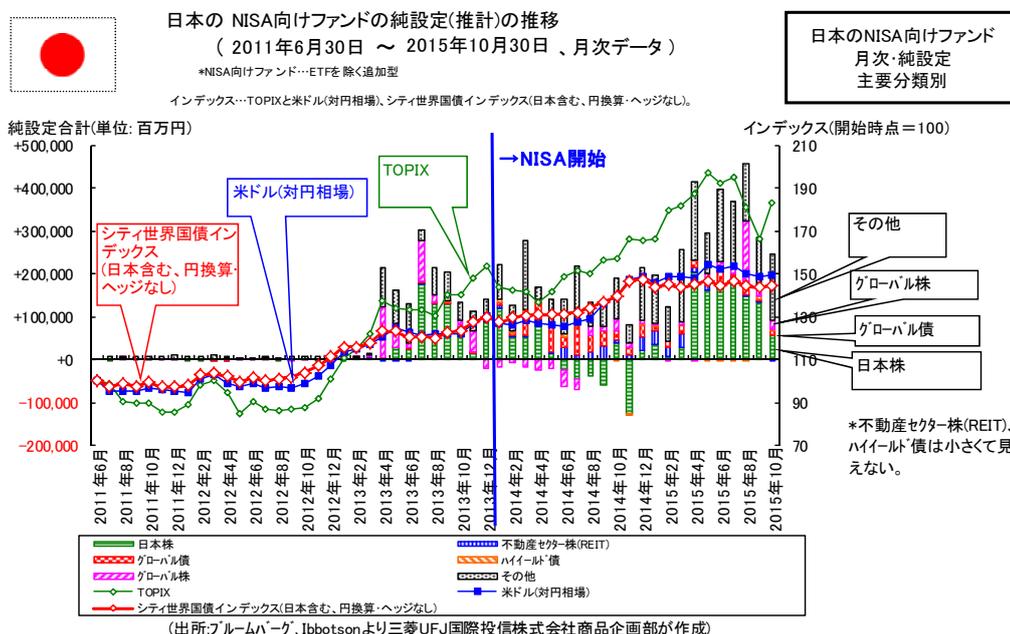
新規投資家は日本株・米国大型ブランド株・その他オルタナティブを買っている様だ

次に新規投資家を示すNISA向けファンドの純設定を見ると、次頁グラフの通り、最新2015年10月に+2460億円強と、NISA開始(2014年1月)以来最大だった前々月8月(+4500億円強)の5割強の水準で、2014年12月から11カ月連続の資金純流入となった(*NISA向けファンド…後述※1参照)。



新規投資家は若年層が多いと思われるが、この若年層の NISA 投資が伸びていると言う事については、金融庁の「NISA 口座の開設・利用状況調査」(2015年6月末時点)で、「30代以下の NISA 買付額の増加率は 18.9%、NISA 口座数の増加率は 8.5%とそれぞれ年代別で最も高い(*2015年3月末から6月末にかけての増加率)。」と言う事に示されている通りである(URLは後述[参考ホームページ])。

この新規投資家と思われる投信の 2015年10月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、純流入1位は前月に引き続き日本株で(2015年4月から7カ月連続1位)、2位は米国大型ブレンド株(同5位)、3位はその他オルタナティブ(同3位)、4位は日本マネー・プール(同7位)、5位はCB(同24位)となっている(米国大型ブレンド株およびその他オルタナティブ、日本マネー・プール、CBは、下記グラフで「その他」に含まれる)。



既存投資家でも新規投資家でも、日本株人気は継続だが、9月まで見られた純設定額で全体の約半数を占めるほどの勢いは、やや後退している。3位の「その他オルタナティブ」や4位の日本マネー・プールだが、これは前月に引き続き日本株のブル・ファンドなどブル・ベアファンドや、スイッチングによるものが多い。

※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2015年10月30日時点で1033本となった。

ネット証券での人気は日本株・グローバル株

ここで、各証券会社の集計結果も見る。2015年10月2日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券では最新2015年10月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・4位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている。前月9月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10は、1・3・4・5位は日本株ファンド(*4位はブルベアファンド)、2位はグローバル株ファンドだった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週2015年10月26日から10月30日までは、1位は日本株ファンド、2・4・5位はグローバル株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。約1カ月前の2015年9月21日から9月25日までは、1・3位は日本株ファンド、2・4・5位はグローバル株ファンドだった。

○カブドットコム証券では、2015年9月のNISA口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1位は不動産セクター(REIT)ファンド、2~4位は日本株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている。前月8月のNISA口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位は日本株ファンド、3位はアセットアロケーションファンド、4位はグローバル株ファンド、5位は新興国株ファンドだった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2015年10月26日から10月30日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1位はアセットアロケーションファンド、2・4・5位は日本株ファンド、3位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年9月21日から9月25日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・4位は日本株ファンド、2位はアセットアロケーションファンド、3・5位はグローバル株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015年10月26日から10月30日までのNISA投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年9月21日から9月25日までのNISA投資信託・買付金額の1・2・4位は日本株ファンド(*4位はブルベアファンド)、3位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドだった。

<NISA 積立~2015年11月4日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2015年10月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、4位はアセットアロケーションファンド、5位は新興国株ファンドとなっている(*1・2・5位はインデックスファンド)。

○カブドットコム証券では、2015年9月のNISA口座積立総合(約定金額)ランキングを出しており、1位はアセットアロケーションファンド、2・3・5位はグローバル株ファンド、4位は新興国株ファンド(*2~5位はインデックスファンド)となっている。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、2015年10月26日から10月30日までのNISA口座では、1位は外国債ファンド、2・5位はグローバル株ファンド、3位は日本株ファンド、4位は日本債ファンドとなっている(*すべてインデックスファンド)。

ネット証券では引き続き日本株の人气が強いものの、次いでグローバル株、アセットアロケーションファンドやREITなどへ人气が分散してきているようだ。一方、積立ではグローバル株やグローバル債が人气で、日本株人气は後退している。

以上、NISAで何が買われたか、について既存投資家、新規投資家、ネット証券の順で見えてきた。10月は日本株人气が継続。その他、既存投資家ではREIT・アセットアロケーション、新規投資家は米国大型ブレンド株やその他オルタナティブも人気だった。

NISAで投資を行わない理由は、どの商品に投資するか迷っているから!?

尚、金融庁が2015年10月1日付で公表した「若年層を中心とした個人による投資の現状とNISAの利用促進に向けた課題に関する調査」報告書によると、NISA口座を既に開設しているのに投資を行っていない理由として、20~40代の若年層に最も回答の多かったのが「どの商品に投資するか迷っているから」(52.0%)だった(※投資未経験のうち、投資関心層の回答。URLは後述[参考ホームページ])。「株の銘柄も投資信託も多い。…(略)…。投資は自己責任というイメージがあるので、きちんと自力で見定めてから購入したいが比較対象があまりにも多すぎる。投資を始められない理由はそれが一番大きい。」と言う声もあったとされる。

こうした投資の「壁」に対して、少しでも参考になれば幸いである。もちろん、これは2015年10月における事で今後は不明である。引き続き、データ等をしっかり見て判断していきたいものである。

以 上

[参考ホームページ]

2015年11月6日付日本経済新聞朝刊「見えない郵政相場の先 揺らぐ日本株の相対優位」…

「http://www.nikkei.com/markets/column/scramble.aspx?g=DGXLASGD05H7H_05112015EN1000」、

2015年9月15日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成27年6月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20150915-1.html>」、

2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA向けのファンドって？」…

「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」、

カブドットコム証券のNISA月間口座買付総合ランキング…

「http://kabu.com/item/NISA/ranking/fund_generation.html」、

SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」。

2015年10月1日付金融庁「若年層を中心とした個人による投資の現状とNISAの利用促進に向けた課題に関する調査」報告書…「<http://www.fsa.go.jp/common/about/research/20151001-1.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。